

本伏せ

放射線の空間線量を測定し、 $0.1 \mu\text{Sv/h}$ 以下の場所を選ぶ。



- ・ 1～2か月仮伏せを行った後、ほだ木を上の写真のように並べる。



褐変した菌糸

- ・ 麦わらで被覆し、水分を与えながら風通しも行う。
- ・ 散水は、3日に一度、3時間を目安、天候によって加減する。
- ・ 被覆する前後では、ほだ木全体に水がかかるよう、十分散水する。
- ・ 本伏せ終盤は散水を多めに行う。
- ・ 翌年の秋までの約一年間行い、ほだ木に十分菌を成長させる。
- ・ 木口の菌糸が褐変するころが目安となる。

浸水



- ・ 菌が十分成長したほどだ木を水につけ、水分と低温の刺激を与える。
- ・ 浸水時間は、夏は20時間程度、秋は1～2日、冬は1～3日程度が良い。

発生



- 浸水後、温湿度の安定した施設内にほだ木を立てかける。
- 温度12℃の芽出し室に3日間置き、その後、温度20℃程度のハウスへ移す。
- 3日程度できのこが発生し、1週間～10日程度で収穫となる。
- 発生したきのこが接触しないように、ほだ木の間隔を開ける。
- 収穫終了後は、ほだ木を林内などに運び、1か月程度ほだ木を休養させる。
- 連続して浸水し、発生させる場合もある。

収穫



× 傘の変形



× 開きすぎ

- ・ スケール、ノギス等で形状を計測し、より真円形のきのこを収穫する。
- ・ 1日に数回は成長状況を確認し、最適な状態で収穫する。
- ・ 傘の膜が切れる前、ひだが見える前に収穫する。
- ・ 傘の傷や柄の割れなどに注意して収穫する。

梱包



- ・ 大きさ、色合い、形状の整ったきのこを集め、箱やトレイに詰める。
- ・ A品質のものをそろえ、B品やC品の混入を防ぐ。(表-3参照)
- ・ 傘の傷や変形に注意する。
- ・ 異物混入防止には最大限の注意をはらう！

表-3 品質区分と基準

品質区分	基準
A	傘の肉が厚く、水分含有量が少ない。 色沢及び形状が良好で、足が比較的短い。 傘の開きが7分開き以内のもの
B	傘の肉厚、水分含有量、色沢、形状がAに次ぐ。 傘の開きが8分開き以内のもの
C	Bに次ぐもので、傘の開きが9分開き以内のもの

栽培スケジュール例

年	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
1年目	購入 伐採	植菌	仮伏せ			本伏せ						
2年目	本伏せ						発生4回転			休養		
3年目	休養							発生2回転				



おわりに

このマニュアルを作成する過程で、栽培方法の見直しや意見収集、温湿度データの取得を行ってきました。

その結果、従来から行われていた栽培方法は、シイタケの栽培環境を安定させるのに効果的であることが解明されました。

原木シイタケ栽培の歴史は古く、栽培に関するたくさんの資料があります。

それらの資料どおりに栽培することが、原木シイタケを安定して栽培するための近道であると、証明されました。

また、必要なところに必要なだけ手間をかけることが、高品質のシイタケを栽培、収穫することにつながります。

本マニュアルにおいても、写真を活用して、手間をかけるところを細かく解説しました。

高品質のシイタケは市場で高値がつき、より高収入につながることができます。

多くの方が高品質のシイタケを栽培できるよう、心から願っております。





お問い合わせ先

群馬県林業試験場

〒370-3503 群馬県北群馬郡榛東村新井2935

TEL 027 (373) 2300

FAX 027 (373) 1036

E-mail rinshi@pref.gunma.lg.jp

URL <http://www.pref.jp/07/p13710024.html>